

# 『観光名張』と吉田朝太郎が描いた三重県名張市の鳥瞰図について

田中 和幸

## 1. はじめに

三重県名張市は、県の北西部に位置する。昭和 30 年代から宅地開発が行われ、昭和 56 年度には人口増加率 1 位を記録し、大阪のベッドタウンとして名を馳せた。ところが、この反動は少子高齢化の煽りを受け、名張市は消滅可能性都市に位置づけられた。このような名張市ではあるが、伊賀電気鉄道が大正 11 年に開業すると赤目滝や香落溪に観光客が押し寄せた。現在では、観光客数が伸び悩み対策を講じているなか、筆者は刊行年や発行先が記されていない『観光名張』と称する冊子を手に入れた。これは、名張市役所はじめ、郷土資料館や図書館でも所蔵を確認できない。また、郷土史家らへ聞き取り調査を実施したが、『観光名張』を知る人は管見の限りでは見いだせてはいない。本稿では『観光名張』の概要を把握し、そこに掲載されている鳥瞰図が描かれた年代と作成背景について考察する。方法は、地元紙の「伊和新聞」を主資料とし、広報誌や『名張市史』等より、『観光名張』に関連する記事を抽出し分析を行った。

## 2. 『観光名張』と「伊和新聞」の観光に関する記事について

『観光名張』は、縦 17.5 cm×横 19 cmのサイズで中綴じ製本され、表紙と裏表紙を含め 20 ページからなる。内容は、赤目滝や香落溪の観光案内に加え、現地に生息するオオサンショウウオ等が紹介され、見開きには「名張観光案内図」(図 1)と記された鳥瞰図が印刷されている。前述の通り、刊行年は不明だが名張市営赤目ロッジを紹介したページには「昭和 37 年 9 月 1 日に開館」とある。また、赤目キャンプ場のテント村についても紹介されている。『赤目滝今昔』によれば、キャンプ場は昭和 24 年に開設したものの「昭和 40 年の夏を最後に閉鎖」と記されていることから『観光名張』は、昭和 37~40 年に刊行されたことが分かる。

続いて、名張市立図書館に所蔵されている「伊和新聞」を用いて、昭和 40 年以前の観光に関する記事を抽出した結果、三期に大別できた。第一期の昭和 28 年には名張を「水都」と称し、第二期の昭和 29~36 年にかけては観光協会を整備、第三期の昭和 36~40 年にかけては赤目滝と香落溪に加え、奈良県の室生を含めた広域の観光開発の実現であった。従って『観光名張』が印刷



図 1 『観光名張』の見開きページに掲載されている鳥瞰図

されたのは、名張が赤目滝や香落溪の観光開発に力を入れていた時期で、このことを紹介しようとする戦略があったと考えられる。

### 3. 吉田朝太郎が描いた名張の鳥瞰図について

吉田朝太郎は、二代目初三郎とも呼ばれ、大正から昭和にかけて各地の鳥瞰図を描いた吉田初三郎の弟子の一人である。鳥瞰図を収集し調査研究を行っていた藤本一美は、『地図情報 36-4(pp. 32-34, 2016)』に『『水の古都 名張市』(名張市鳥瞰図)伊和印刷社納 昭和 30(1955)年頃、朝太郎よしだ署名』と名張の鳥瞰図について記している。構図等は不明だが、名張市松崎町にある伊和印刷社には、かつて社長が使用していた机に『観光名張』に掲載された一枚の鳥瞰図が色褪せた状態で残されていた。ただ、いつ、どのような目的で朝太郎に依頼したのかは不明であったことから、鳥瞰図に描かれた内容について調査した。鳥瞰図に記されている「商工会議所」は昭和 33 年 3 月に認可され、また三重県の文化財であった「長瀬の小粒櫃」は、昭和 34 年 6 月の伊和新聞に「小粒カヤ消える」とあることから、絵図は昭和 33 年 3 月から 34 年 6 月を描いた可能性が推察される。

### 4. 考察

鳥瞰図の市役所は雁行型だが、昭和 30 年 12 月に竣工した名張市役所は「くの字型」である。これは、昭和 29 年 12 月に木造庁舎の焼失を受け建て替えられたものだが、焼失前の昭和 29 年 3 月 11 日の伊和新聞には「鉄筋三階の市廳舎 工費 5 千萬円廿年度に建設」とある。記事の内容より、この時には立替え計画が出来ていたことを裏付けており、その形状が雁行型であったと考えられる。また、名張の商工会議所の正式認可は昭和 33 年 3 月であるが、昭和 29 年 9 月 6 日の伊和新聞に、商工会議所設立に対する助成申請を当時の名張市長へ提出したとする記事の掲載後も、商工会議所の名称を使い続けていることから、鳥瞰図の完成は昭和 29 年まで遡れる可能性が高いことを示唆している。

昭和 29 年は町村合併を行い名張市が誕生しており、この時に鳥瞰図を朝太郎に依頼した可能性がある。また、吉田初三郎や弟子たちが描いた鳥瞰図には、原図の存在が知られている。名張市の鳥瞰図には、原図が存在するかは不確かだが、藤本が記す「水の古都 名張市」とするタイトルと伊和新聞から読み取れた観光記事の内容を踏まえれば、その可能性は決して否定できないと考えている。名張市が 70 年前に誕生したことを記念して作成された可能性がある朝太郎の鳥瞰図の存在を広く周知すると共に、令和 6 年 3 月の市政誕生 70 周年を迎えるにあたり、朝太郎が描いた名張市鳥瞰図の原図の発見を期待する。